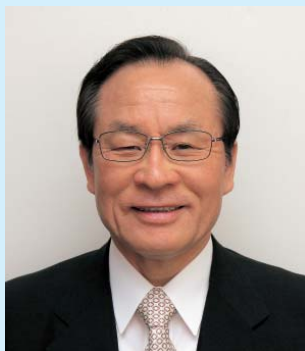


# これからの佐世保市のまちづくり ～ひと・まち育む“キラっ都”佐世保～



佐世保市長 ともなが のりお 朝長 則男

1949年生まれ  
1987年5月～ 佐世保市議会議員（2期）  
1994年2月～ 長崎県議会議員（4期）  
2007年4月 第28代佐世保市長就任

### はじめに

本市の今後の10年間（2008年度から2017年度）のまちづくりの将来像を示した「第六次佐世保市総合計画」が昨年3月に完成し、新しいまちづくりへ向けた取組みが昨年度からスタートいたしました。

現在、そのまちづくりも2年目を迎えておりますが、本市は長崎県の北部に位置し、西海国立公園「九十九島」の美しく恵まれた自然景観に加えて、基地施設を有する特有の地域であります。本市を取り巻く環境変化について見てみますと、人口減少時代の到来や少子高齢社会の進展、経済構造の変化・地方分権社会への対応を背景に、限られた行政資源（人・物・金）のもと、福祉・医療・安全対策・教育・環境問題など様々な社会や住民のニーズに 대응していかなければならないと言った厳しい状況にあります。

一方、住民・地域主体のまちづくりに対する意識の高まりや市町村合併等への対応（新市の一体化の醸成）など、地方や身近な地域を主体としたまちづくりの動きが活発化してきているのも事実です。

“人口減少社会”“地方の時代”“格差の時代”などといった時代を象徴する様々な言葉が飛び交っておりますが、まさに戦後稀に見る「変革の時」を迎えていると言えます。

そこで今回の新たな総合計画の策定にあたっては、先ほどの本市の取り巻く環境の中でも触れましたとおり、直面している厳しい状況の中で、従来のように行政のみがまちづくりを担い、行っていくことは難しいとの判断から、市民や事業者の方々も含めたところで、みんなで考え、同じ目標に向かってまちづくりを進めながら、直面する難局を乗り越えていく必要があります。

そういった考え方のもと、次の4つの基本

的な視点をもって、策定いたしました。

①市民とともに創りあげる総合計画

②みんなが使える総合計画

③点検評価で進化し続ける総合計画

※特に、今回の計画では数値による明確な  
達成目標（観光客数等）を設定

④地域の一体感の醸成を目指す総合計画

これら4つの視点を踏まえて、市民からの提言（当時、計画づくりを考える市民会議を設置）、市の附属機関である総合計画審議会でのご意見、そして、私が選挙の時に掲げた公約、いわゆる市長マニフェスト等の内容を踏まえながら、行政において計画案を作り、議会の承認を得て、総合計画書が出来上がった訳でございます。

では、ここからはこれからの本市のまちづくりということで、計画の概要・中身について述べさせていただきたいと存じます。

「ひと（市民）」が中心のまちづくりを基本理念として、本市が目指す将来像を「ひと・まち育む“キラっ都”佐世保～自然とともに「市民の元気」で輝くまち～」とし、併せて、これを下支えし、実現するための調整役となるべき行政の姿勢（行政像）を「市民とともに歩み、変革し続ける行政」といたしました。

そして、この将来像を実現するためのまちづくりの基本目標について、多様化・複雑化する課題に対応するべく、次の7つの目標を設定しております。

- 1 「健康で安心して暮らせる福祉のまち」
- 2 「安全な生活を守るまち」
- 3 「心豊かな人を育むまち」



総合計画書（表紙）

- 4 「あふれる魅力を創出し体感できるまち」
- 5 「雇用を生み出す力強い産業のまち」
- 6 「人と自然が共生するまち」
- 7 「快適な生活と交流を支えるまち」

次にこれらの目標について、数多くの取り組みの中から、最近の状況等を踏まえて述べさせていただきますと存じます。

### 「健康で安心して暮らせる福祉のまち」

1つ目の「健康で安心して暮らせる福祉のまち」について、高齢者や障がい者の方々への福祉や医療・社会保障などの面での様々な取り組みを進めております。

この中で、本市では、「地域福祉」のあり方や、市全体でそれを進めていくための考え方や取り組みについてまとめた『地域福祉計画』を本年3月に策定いたしました。

本計画の策定にあたりましては、2006年1月のモデル地区の実施を皮切りに、2008年3月までに延べ57回に及ぶ住民座談会「地域福祉“お茶の間トーク”」を実施し、市内31の地区ごとに市民のご意見を広く聴くとともに、その結果を基にした地域ごとの市民の行動計

画としての『地域福祉活動計画』を併せて策定したところです。

今後は、計画の策定における過程と同様に、「市民協働」の理念の下、市民の方と一体となって本計画を推進して参ります。

また、食をめぐるさまざまな課題の解決に向け、食育を計画的に推進するため、2006年12月に「佐世保市食育推進計画」を策定しました。市民、教育関係者、農業・漁業者、食品関連事業者、医療関係者、市民団体等の皆さまと行政が連携・協働して「食育」を推進し、一人ひとりの「食」に対する関心を高め、生き生きと生活できる豊かな暮らしを実現していこうとするものです。

現在、地産地消や、生ごみを利用した野菜づくりなど、様々な個別の取組みが進められています。

### 「安全な生活を守るまち」

次に2つ目の「安全な生活を守るまち」について、がけ崩れや地震などの災害、日常生活で起こり得る犯罪・事故などへの対策、また食の安全など健康を守る環境づくりを進めています。

その中で防災面についてですが、近年、本市でも温暖化が原因と思われる異常気象による災害に見舞われることが多くなってきました。特に本市の特徴として斜面地に多くの住宅地がありますので、急傾斜地の保全是もとより、災害や緊急事態に対応できる体制の充実のため、身近な地域単位での防災体制をさ

らに充実させて参りたいと考えております。

また、感染症対策として、新型インフルエンザが本市においても、既に症例が発生しております。今後、大流行するとの予測もございますので、今後も市民の皆さんへの情報提供や、防護服・マスク・抗ウイルス薬など、対策上必要な備蓄を行いながら予防対策には万全の体制で臨んで参りたいと考えております。

### 「心豊かな人を育むまち」

3つ目の「心豊かな人を育むまち」について、本市において人づくりを進めていくための取組みとして、子育てへの支援、学校教育の充実、生涯学習・スポーツに親しめる環境づくり、男女共同参画など人権が尊重される社会づくりなどを進めています。

その中で学校における、学校給食の取組みがあります。

学校給食をめぐるっては、これまで本市においても、完全給食実施を求める要望等の動きがあっておりました。

この問題については、2007年8月に「佐世保市立学校給食検討委員会」を設置し、中学校給食の未実施校における実施、及び学校給食のあり方を含めた諸問題の検討作業を進めました。昨年5月と11月に、検討委員会から食育の重要性を踏まえ「中学校給食の早期実現と実施にあたっての留意点」及び「食育実践のための学校給食の充実と継続可能な給食運営」に関する答申がなされ、それを受けて、本市としての学校給食実施方針を策定い

たしました。

その方針の中には、学校給食を食育の生きた教材として更に活用することや、安全・安心で、食育の実践ができる給食調理施設の整備を進めることなどを定めております。

現在、2012年度の中学校完全給食実施に向け、安全で食育の実践ができる給食センターの整備に向け、調査・設計を進めております。

### 「あふれる魅力を創出し体感できるまち」

4つ目は「あふれる魅力を創出し体感できるまち」を目標に掲げ、本市の特徴でもあります九十九島の自然、歴史・文化などの地域資源を活用した観光の振興、アルカスSASEBOを拠点とした文化芸術の振興、また、国際色豊かなまちづくりや魅力的な景観づくりなどの取組みを進めています。

これまでも力を入れて参りました観光客の誘致促進につきましては、世界的な金融・経済危機が、本市の観光産業にも大きな影響を与えておまして、国内外からの観光客数の減少が続いていることから、財団法人佐世保観光コンベンション協会等を中心とした観光アピールやコンベンション誘致を積極的に推進している状況でございます。特に、本市を訪問される外国人観光客は、急速な円高の影響も加わり、大幅に減少していることから、東アジアを中心とした地域における国や県の観光戦略等との連携をとりながら各種誘致事業の展開も図っているところであります。

そのような中で、明るいニュースとしまし

ては、これまで整備を進めてまいりました西海国立公園九十九島水族館「海きらら」が、本年7月18日にリニューアルオープンいたしました。国内では珍しい屋外型(屋根がない)水槽「九十九島湾大水槽」や、国内最大級を誇る「クラゲシンフォニードーム」、その地下にはクラゲ研究室があり、2008年ノーベル化学賞を受賞された本市ゆかりの下村脩博士のコーナーも設けられており、勿論ノーベル賞のきっかけとなった「オワンクラゲ」は必見です。また、イルカを観察できる「九十九島イルカプール」など、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことのできる施設となりますので、九十九島観光の更なる魅力向上と、本市の観光拠点としての役割は益々高まるものと考えております。

一方、隣接地域にある佐世保市亜熱帯動植物園(石岳動植物園)も、九十九島の景観に抱かれた日本最西端の動植物園として、2011年の開園50周年に向け、更に魅力ある動植物園づくりを目指し、ソフト・ハード両面の整備充実を図る予定です。

これら拠点も含めて本市特有の恵まれた自然環境、文化・歴史等の地域資源を活用した「させばエコツーリズム」の推進がございました。旅を通じて、自然等の貴重な資源を大切にしながら、楽しみながら、地域が中心となってみんなで協力し合い、「人と自然」「人と人」とのつながりを理解し、行動するという広がりを持った取組みを推進しております。

具体的には、地域の自然や歴史・文化等の資源を活用したエコツアーの開発・展開等の



取組みを柱としながら、あわせて、来訪者を迎え、楽しんでもらうために、ガイド等の人づくり、ツアー等をコーディネートする受皿組織づくりなど、基盤となる「仕組み」を作り上げて参ります。

その結果として、佐世保に触れ合って理解してくれる人たちが増えることで、佐世保ブランドのイメージの高揚とともに二次的な効果として経済波及効果等にもつながり、持続可能な観光振興が図られるものと期待しています。

### 「雇用を生み出す力強い産業のまち」

5つ目の「雇用を生み出す力強い産業のまち」で、この分野は特に重要視している取組みでございまして、商工業や農林水産業において、様々な産業振興策の展開を図り、地域産業の活性化や地域に根ざした新たな産業の創出、働きがいのある安定した雇用環境の創出が進められています。

近年の経済状況は非常に厳しい状況にありますので、雇用安定につながる新規企業立地につきましては、市の重点政策の一つと考えております。

具体的には江上の大手原地区（長崎国際大学の横）に、県の工業団地「佐世保ニューテクノパーク」が整備されております。そのパーク内に、佐世保情報プラザが設置され、KDDIエボルバ(株)（テレフォンショップなどのコールセンター）をはじめ計7社の新規企業が進出しています。KDDIエボルバ(株)の新

規雇用数は、最終的に約630名にのぼる予定であり、さらに隣接地には、自動車関連の部品を製造する九州新生電子(株)佐世保工場も、本年4月から操業を開始しておりますので、今後の雇用拡大に大いに期待しているところであります。

また、本市におきましても、市営工業団地の整備計画を進めており、その第一弾として、本市吉井町に御橋工業団地を再整備し、さらに今後も企業誘致の促進に取り組んでいく予定であります。

産業振興に関しては、今後更なる産学官連携での取組みが重要となってきております。具体的なものとして、技術マップの活用と産業コーディネーターによる支援を中心に取り組んで参りたいと考えております。

まず技術マップの活用ということでその内容ですが、会社概要、セールスポイント、保有している技術・設備、代表的な製品などの情報をデータベース化し、冊子やインターネットなどで公開する販売促進のツールとしております。この技術マップを活用することで、専属の営業マンを有していない企業でも容易に広く自社のPR活動ができるようになり、新たなビジネスチャンスの拡大に繋がることが期待されます。

佐世保市では、「佐世保版技術マップ」を昨年度策定し、市外の企業へ佐世保市内の企業を知ってもらい、新たなビジネスチャンスにつながるような支援を行っております。また、市内企業の情報を一元化するため、誘致企業へ佐世保の企業の技術力を紹介する際の

資料としても活用することができます。

次の産業コーディネーターによる支援ですが、このコーディネーターの定義として、各種分野の専門人材（コーディネーター）が企業を訪問し、企業が抱える様々な問題（症状）に合致した解決策（処方箋）を適宜施し、治療する町医者的な役割を担う人としております。このコーディネーターによる訪問支援を行うことで、販売、技術、人材育成などの企業が抱える様々な問題の解決に繋がることが期待されます。

現在、支援機関等で同様の取組みを行っていますが、市や県などの支援メニューや各種研究機関とのマッチングをより強化する取組みが必要となっており、企業（事業者）のご意見をより一層きめ細かに伺うために、新たに支援団体の枠を超えた産業コーディネーターのネットワークを構築し、地域内の支援機関等が連携した、効率的な体制づくりを検討していきます。

### 「人と自然が共生するまち」

6つ目は、「人と自然が共生するまち」を目標に掲げ、環境問題への意識を高めるための環境教育・学習の推進、本市が有する豊かな自然環境の保全、大気汚染などの公害への対策、また、日常生活の中で出されるゴミや生活排水の適正な処理等に関する取組みを展開しています。

環境問題は、子どもたちの将来に大きな影響を与えます。我々一人一人が環境市民とし

てのエコ活動を実践し、その役割を果たしていくことが重要だと考えております。また、ゴミの減量化の意識啓発や関連施設の適正管理など計画的・効果的に展開して参りたいと考えております。

### 「快適な生活と交流を支えるまち」

最後に7つ目の「快適な生活と交流を支えるまち」でございますが、ここでは、中心市街地や周辺の既成市街地におけるまちづくりの他に、公園・水道・交通・港湾などの都市基盤整備を進めております。その主要政策になっております「活力と賑わいのあるみなどづくり」の中から国際航路について少し触れさせていただきます。

現在、佐世保駅の港側については、これまでの物流と生産が主体であった港を、人、物、情報など総合的な機能を有する未来に向けた「みなとまち」へ再生する目的でポータルネットワーク21計画事業が進められており、現在、観光レクリエーション施設、臨海公園の整備計画など、事業の推進を図っております。

一方、佐世保港の83%は米軍や自衛隊により専用されており、国策（防衛機能）により自由に使える場所が制限されております。港で栄えてきた佐世保のまちではありますが、物流や観光と言った商港機能は、この広大な港に比して、その機能を十分に発揮できない歯がゆさがあることは、事実であり、佐世保の宿命でもある訳であります。

そのような中、国際航路の開設につきまし

ては、定期客船航路開設に向け、釜山のフェリー会社及び県とともに随時協議を行いながら進めています。この航路開設事業は、韓国や中国をはじめとする東アジア地域との結びつきを強化し、「九州・アジアへのサブゲートウェイ」としての一翼を担う多目的国際ターミナル施設の整備を行うものであります。佐世保港内には、ハウステンボスや九十九島などの観光資源があり、貨客フェリーや旅客船の誘致に積極的に取り組むことにより、佐世保市の観光産業や交流人口の拡大につながるものと期待しているところであります。

また、本整備により、大型貨物船の入港が可能となる結果、物流コストの削減や地域経済の国際競争の強化につながり、これにより、物流発展の足がかりや、中長期的には東アジア各国との港湾物流の開拓にもつながり、港の発展や地域経済の活性化にも大きく貢献するものと判断しております。

一方、我々の生活に身近な交通政策についてでございます。

本市では、「地域交通再生計画」を策定し、交流を支える地域交通づくりとして、「公共交通づくり」を中心に据え、「道づくり」と「交通環境づくり」を一体的に推進し、市民や訪れる人が安全で快適に移動することができるまちづくりを進めることとしております。

具体的には、身近な足であるバスや鉄道等の利便性の確保、斜面住宅地等の交通不便地区における対応（乗合タクシー等）、交通渋滞の緩和等に関する取組みの検討が必要となって参ります。今後は、道路整備や公共交

通に係るアクションプランに基づき具体的な取組みを、市民や事業者の方々のご参画・ご協力も得ながら展開して参ります。

## おわりに

以上、7つの基本目標を柱に主な取組みについて述べさせていただきましたが、保健福祉・教育・産業・環境などの分野として39の政策、115の施策に区別して、10年後の佐世保の将来像や基本目標を目指し、計画的に市政運営に取り組んで参ります。

またこれらのまちづくりを実現していくために、「市民協働によるまちづくり」の考え方にに基づき、計画の策定時と同様に「市民会議」（ひと・まち育む元気プラン市民会議）を立ち上げ、広くご意見等をお聞きしながら、計画の実現に向けよりよく推進していくための点検作業を行い、改善のアイデア等をいただくようにしております。

また、附属機関である総合計画審議会におきましても、同様にまちづくりの進捗に関して毎年点検評価していただきながら、よりよいまちづくりを進めていくこととしております。

最後になりますが、まちづくりの目標実現にあたり、私の信条でもある「市民第一主義」を市政運営の基調としながら、清潔、公平、公正、公開を旨とする政治姿勢を貫き、「政策に厳しく、人にやさしく」をモットーとして、市政発展のために全力を尽くして参ります。今後とも皆さまのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。